

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

第50回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

期 間：令和4年12月4日(日) 開催

会 場：大宮ソニックシティ

テーマ：「伝統と革新 ～知・技・験の伝承～」
50回だヨ！ 全員集合～



第50回 埼玉県医学検査学会
運営部 岡村 卓哉

第50回埼玉県医学検査学会にて運営部を担当しております、獨協医科大学埼玉医療センターの岡村卓哉と申します。

今回は運営部のお仕事と学会での運営部からの「推し」をご紹介します。

運営部のお仕事は簡単に説明をすると学会が滞りなく開催できるように準備、運営することです。簡単に書いてしまうと「そうなんだ～」で終わってしまいますので、もう少し細かくご紹介させていただきますと、学会タイムスケジュール作成や会場の割り振り、必要な備品や機材の準備、LINEなどを使用したご案内、そして何より大事なランチョンセミナーのお弁当の選定など！多岐にわたります。小原運営部長を中心に運営部のメンバーで力を合わせ、参加者の皆様に喜んでいただけるような運営を目指して準備を進めています。

次に「推し」ですが、今回は新しい試みとして、55インチの大きな!!モニターを使用した一般演題やCM演題の発表形式があります。大きなモニターですので、発表スライドの図表や写真が鮮明な画像で見ただけだと思います。一部の分野は従来通りのプロジェクターでの発表になりますが、こちらはいつも通りの大きな!!スクリーンとなりますので、図表の詳細な部分まで見ただけかと思えます。また、演題ごとの発表スライドをお手持ちのタブレットやスマホで見られるように計画を進めております。

魅力的な講演やたくさんの学会企画を準備しておりますので、ぜひ学会へご参加ください。

「学会参加事前登録について」

第50回 埼玉県医学検査学会
会計部 加藤 鉄平

第50回埼玉県医学検査学会の会計を務めさせていただきます、埼玉県済生会加須病院の加藤鉄平と申します。

一般演題の締め切りも過ぎ、一息つく間もなくスライド作成に取りかかっている方もいらっしゃると思いますが、実行委員会も学会に向けて着々と準備を進めています。

学会は大宮ソニックシティで現地開催を予定しています。学会参加には事前登録をお願いいたします。参加費は例年通り、埼臨技会員（日臨技会員）：2,000円、賛助会員：2,000円、非会員：5,000円、学生：無料となっております。参加費に関しましては「Peatix（ピーティックス）」というイベント管理サービスを用いて、クレジットカード、コンビニ/ATMでお支払いができます。まだいくつか検討事項もあるため、また決まり次第、埼臨技だよりや学会のホームページ等でお知らせいたします。



研究班研修会報告

テーマ 薬物乱用防止について

主催 公衆衛生検査研究班

実施日時：2022年5月27日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：基礎教科－20点

講師：龍野 真人（埼玉県保健医療部薬務課 薬物対策・献血担当）

参加人数：会員27名

出席した研究班班員：吉田翔平 鈴木由美子 鈴木勉 富井貴之

研修内容の概要・感想など

埼玉県保健医療部薬務課 薬物対策・献血担当の龍野氏に、「薬物乱用防止について」の講演が行われた。本研修会は、埼玉県のホームページより講師派遣の情報を得て当研究班から依頼をし、薬物乱用防止の啓発活動の一環として開催した。

薬物事犯の現状として、埼玉県においては年間の薬物事犯検挙者が500人前後で推移しており、覚醒剤事犯の検挙者が最も多くなっている。また、大麻事犯の検挙者が増加傾向であり、若年層の割合が高いとのことであった（約6割が30歳未満）。大麻を使用したきっかけは、「誘われて」が最も多く全体の約70%を占めており、初めて使用した年齢は20未満が全体の47%、20歳代が36%であり、合わせて全体の83%を占めている。

乱用の定義は我々の認識と若干異なり、①法律で禁止されている薬物を使うこと ②正しい方法ではない使い方をすることであり、特に②に関して例えば風邪薬などを1日3回のところを4回飲んだ、1回1錠のところを2錠飲んだ、自分に処方された薬を他人に飲ませたなどを、1度でも行くと「乱用」になるとのことである。

埼玉県のある全薬物事犯における再犯者は、例年50%を超えており、再犯率の高さが薬物事犯の特徴である。また、全薬物事犯検挙者の約半数が暴力団関係者となっており、大きな社会問題となっている。

埼玉県の薬物乱用対策の3つの柱は「予防啓発」「回復支援」「取締指導」であり、中でも予防啓発では、若年層に対する大麻の正しい知識の啓発を重点取り組みとしている。具体的には街頭キャンペーン等による地域社会への薬物乱用防止の啓発や、その活動を担う薬物乱用防止指導員の活動促進を行っている。回復支援については、依存症治療に係る医療体制の整備、回復支援に取り組む団体と連携した相談事業、薬物依存者・乱用者およびその家族等への相談助言を行っている。取締指導は規制薬物の取締強化、医療機関などの正規流通麻薬の適正管理、インターネット販売サイトの定期的な監視などに取り組んでいる。

今回の研修会はいつもとは趣向を変えて開催したが、非常に興味深い内容であった。若干参加者が少なく残念な部分もあるが、来年度以降も定期的に開催するに値する研修会であると感じている。

(文責：富井貴之)

テーマ **知らなきゃ損!? Part11** ～ その染色だけで大丈夫? 細胞診検査に必要な特殊染色と知識 ～

主催 細胞検査研究班

実施日時：2022年6月7日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講演 1：特殊染色アンケート集計結果 － そこから見えてきたこと －

講師：船津 靖亮（株式会社 正和ラボラトリー）

講演 2：必要な検体処理と特殊染色 － ヒヤリハットを紐解く －

講師：鶴岡 慎悟（JCHO埼玉メディカルセンター）

参加人数：会員67名

出席した研究班班員：鶴岡慎悟 急式政志 船津靖亮 稲山拓司 野本伊織 猪山和美
並木幸子 小川弘美 加藤智美

研修内容の概要・感想など

「知らなきゃ損!？」シリーズは今回で11回目となり、技術的内容に主眼を置いた恒例の研修会となっている。今回は「細胞診の特殊染色」をテーマに行った。

まず、船津氏から、研究班員施設に対して行った細胞診特殊染色に関するアンケート結果が報告され、各々の施設の現状や課題等が提示された。また、特殊染色の有無や追加は、採取部位や臨床診断をもとに実施され、個人の裁量による実施も多くあることがわかった。さらには、インシデント例も報告された。

次に鶴岡氏より、「必要な検体処理と特殊染色」について具体的なヒヤリハット事例を交え解説がされた。臨床からの要求（依頼書）の確認不足、臨床的略語の理解不足などが問題例としてあげられたが、これらには特殊染色の目的を正しく理解することと、知識の整理が必要不可欠であると考えられた。

今回の研修会ではアンケートを通して各施設の現状を知ることができ、また特殊染色の活用方法、検体処理や染色等の工夫も提示された。参加者にとっても自施設の現状について考えるきっかけになったと思われる。

(文責：加藤智美)

テーマ **2022年CLSIドキュメントの変更点について**

主催 微生物検査研究班

実施日時：2022年6月10日 18時30分～19時30分

会場：Web開催 点数：専門教科－20点

講師：原 みゆき（ベックマン・コールター株式会社）

参加人数：会員48名 賛助会員6名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井美美 岸井こずゑ 伊波嵩之 佐々木真一
渡辺駿介

研修内容の概要・感想など

今年度2回目の研修会は、ベックマン・コールター株式会社の原氏を講師に迎えて、2022年CLSIドキュメントの変更点について開催した。CLSIドキュメントの変更点は、全体的なもの、ブレイクポイントに関するもの、その他の3つに分けて説明が行われた。

全体的なものとしては、β-ラクタマーゼ阻害剤合剤の感受性に関するコメントの追加について解説があった。

ブレイクポイントに関しては、*Enterobacteriales*におけるPIPCのディスク拡散法のブレイクポイント削除、およびMICブレイクポイント変更、TAZ/PIPCおよびTAZ/CTLZのブレイクポイント変更、*H. influenzae*および*H. parainfluenzae*のCVA/AMPCのブレイクポイント変更について報告があった。また、新たな抗菌薬であるセフィデロコルの抗菌作用および特性についても解説が行われた。

その他としては、昨年から引き続き血液培養ボトルからのディスク拡散法による薬剤感受性検査について新たに*P. aeruginosa*の追加、判定時間の短縮について報告があった。*P. aeruginosa*で対象となるディスクはCAZ、MEPM、TOB、CPFXの4薬剤である。検査結果は8-10時間で判定できるようになり*Enterobacteriales*ではCAZ、AZT、CTRX、TOBの4薬剤、*P. aeruginosa*ではCPFX、TOBの2薬剤が判定可能である。感受性結果の迅速な報告は非常に重要であるが、カルバペネマーゼや誘導性AmpC産生菌では実施できない点や、実際の症例を例に注意点などを解説が行われた。質量分析などの迅速な同定が必要であったり、陽性フラグ後8時間以内などの条件があるが、実施可能な施設は是非検討していただきたい。

現在CLSIに関する資料の配布ができなくなってしまう、情報収集が難しくなっていると感じる方も少なくないと思われる。今回の研修会を日々のルーチン検査に役立てていただければ幸いである。

(文責：伊波嵩之)

テーマ **こんなとき、どうすれば なぜそれが正解なの？ なぜそれはやってはいけないの？ あなたの“もやもや”を晴らしましょう！**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2022年6月22日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 点数：専門教科-20点

講演：Case studyからみる正しい選択肢（血液型・不規則抗体）

講師：柿沼 幸利（バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社）

参加人数：会員127名

出席した研究班班員：久保居由紀子 宮澤翔子 小原佑太 岸健太 岩崎篤史 廣田涉
比嘉絢子

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、柿沼氏より、血液型検査に予期せぬ反応を呈した2つの事例をもとに、結果の解釈から現場の対応について講演が行われた。

血液型検査は、オモテ検査とウラ検査を実施し、結果が一致した場合にABO血液型として決定するが、オモテ・ウラ不一致の場合は精査を行う必要がある。

事例1ではオモテ検査がO型、ウラ検査がB型と予期せぬ陰性反応を認め、吸着解離試験と抗Hレクチンとの反応によりB亜型が示唆された事例であった。追加検査を選択するポイントと、吸着解離試験の手順と解釈について解説があった。吸着解離試験の検査条件は試薬の添付文書に従うこと、必ず陽性・陰性コントロールをたてることが重要であるとのことであった。

事例2では、オモテ検査がB型、ウラ検査がO型と予期せぬ陽性反応を認め、不規則抗体スクリーニングが陽性の事例であった。このような場合、ウラ検査用赤血球試薬のロットを変更することで予期せぬ陽性反応が陰性化し、血液型が判定できる場合がある。抗体同定のための追加検査や適合血の選択、フィッシャー確率計算法について解説があった。

異常反応を呈した際、考えられる原因は様々であり、対応に困惑することも少なくない。患者情報を確認し、凝集強度に着目することで、ある程度原因を推測することができ、次の一手につながると感じた。赤血球型検査ガイドラインを踏まえてわかりやすく解説していただき、輸血に携わる多くの方々に勉強になる内容であった。

(文責：比嘉絢子)

テーマ 病理解剖の知識を高めよう！(応用編) ～ COVID-19患者の解剖例 ～

主催 病理検査研究班

実施日時：2022年6月24日 18時00分～19時00分

会場：Web開催 点数：専門教科ー20点

講演：COVID-19の病理所見について

講師：奥寺 康司(横浜市立大学医学部 病態病理学教室)

参加人数：会員201名

出席した研究班班員：関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴
遠山人成 松本祐弥 三鍋慎也

研修内容の概要・感想など

今回は「病理解剖の知識を高めよう！(応用編) ～ COVID-19患者の解剖例 ～」をテーマに、奥寺医師に講演をお願いした。

横浜市立市民病院におけるCOVID-19患者の剖検は、業務に携わる人数を最小限に抑え、CAP病理解剖委員会が推奨する換気環境の整備された剖検室にて、ドライで実施するとのことであった。

実際の剖検例の解析からCOVID-19重症例、および回復例における肺病変の本態は「時空的ヘテロ性に富むびまん性肺胞傷害(DAD)」、すなわち、重症例は不可逆的で多様な肺胞の損傷であり、回復例は可逆的な比較的軽度な肺胞障害であること、また、ウイルスの標的細胞が「肺胞上皮細胞」であることなど、病理組織像を交えて解説された。そして、慢性化例においては「活動性の線維増生を示す間質性肺炎である可能性がある」と説明があった。

2019年から続いているCOVID-19については、様々な雑誌やメディア等で、その病態について論じられているが、実際の剖検例を通して病理学的観点から話を聞く機会は限られており、今回の講演は本当に貴重な経験となった。

(文責：三鍋慎也)



お知らせ
その1

遺伝子染色体検査研究班の アンケート調査について

今年4月に遺伝子染色体検査研究班が発足いたしました。

今回、各施設様に向け、「遺伝子検査に関するアンケート調査」を実施しております。

締め切りが9月22日(木)となっておりますので、お忘れのないようご協力のほどお願いいたします。

現在、遺伝子染色体検査研究班のホームページも作成中です。

今後、ご確認をお願いいたします。

(班長 小内礼子)

**令和4年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第5回 理事会議事録**

日 時：令和4年7月7日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本
長澤 松寄 松尾 網野 佐瀬
三木 塚原 伊藤(恵) 神嶋
伊藤(隆) 石井 神戸 小林
長岡 久保田 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 阿部

欠 席：(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和4年6月16日～令和4年7月6日)

6月16日(木) 令和4年度第4回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、佐瀬、
三木、塚原、神嶋、伊藤(恵)、
伊藤(隆)、網野、神戸、石井、小
林、長岡、久保田、長谷川、遠藤、
細谷

6月16日(木) 第1回事務局部会：

神山、山口、濱本、長澤、松寄

6月16日(木) 第1回事業部会：

猪浦、塚原、伊藤(恵)、神嶋、
伊藤(隆)

6月18日(土) 日臨技関甲信支部会議：神山

6月19日(日) タスクシフト指定講習会(007)：

猪浦、山口、松寄、塚原、神嶋、
石井、神戸、長谷川

6月21日(火) 第1回総務部Zoom会議：

猪浦、網野、佐瀬、三木、松尾、
阿部

6月23日(木) 第50回埼玉県医学検査学会：

三木、神嶋

6月25日(土) 日臨技定時会員総会：神山

6月25日(土) 日臨技執行役員予備会議：神山

6月25日(土) 日臨技理事会：神山

6月25日(土) 一都八県会長会議：神山、松岡

6月28日(火) 第1回検査室管理運営委員会研修
会講師打ち合わせ：塚原

6月28日(火) 公益インフォメーション入力確認
作業：

濱本、長澤、松寄、石井、神戸

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 6月16日(木) 第1回事務局部会を開催した。
(別紙資料1)

2) 6月20日(月) 令和4・5年度の埼玉県臨床
検査精度管理専門委員の推薦を提出した。

3) 6月22日(水) 第2回表彰選考委員会を開催
し、一般社団法人日本公衆衛生協会会長表彰
の推薦者を三役承認で選出した。

(別紙資料2)

4) 6月22日(水) 令和4年度の越谷市衛生検査
所精度管理専門委員の推薦を提出した。

5) 6月28日(火) 公益インフォメーション入力
確認作業を行った。(別紙資料3)

6) 6月30日(木) 埼玉県へ公衆衛生協会会長表彰
の推薦様式を提出した。

7) 6月30日(木) 公益インフォメーションへ令
和3年度事業報告を提出した。

2 総務部

1) 6月9日(木) 第1回HP委員会を開催した。
(別紙資料4)

2) 6月19日(日) タスクシフト指定講習会(埼
玉県007)を開催した。(別紙資料13)

3) 6月21日(火) 第1回総務部会(Zoom会議)
を開催した。(別紙資料5)

4) 7月15日(金) 埼臨技だより518号発刊予定。

5) 7月17日(日) タスクシフト指定講習会(埼
玉県008)を開催予定。今回の実行委員は石
井、長澤、山口、塚原、神嶋、阿部、松寄、
猪浦各理事にお願いする。

6) タスクシフト指定講習会(埼玉県009)を8
月21日(日)開催予定で日臨技に申請した。

7) 埼臨技だよりあとがきの執筆について

(別紙資料6)

- 8)学会担当理事として、主)三木理事 副)佐瀬理事とした。新任理事であり引継ぎに時間を要するため、暫くの間、神嶋前学会担当理事の継続をお願いした。
- 3 事業部**
- 1) 6月16日(木)令和4年度第1回事業部会議を開催した。(別紙資料7)
- 2) 6月28日(火)第1回検査室管理運営委員会研修会講師打ち合わせをした。(別紙資料14)
- 4 学術部**
- 1) 6月30日(木)生涯教育研修プログラム8月・9月分の行事登録(日臨技システム)が完了した。
- 2) 7月15日(金)埼臨技会誌Vol.69 No.1発刊予定。
- 5 精度保証部**
特になし
- 6 会計部**
- 1) 令和4年度正会員費69名345,000円、入金金56名56,000円、再入金金3名分3,000円、合計404,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金50,000円の入金があった。
- 3) 石井印刷へ、埼臨技だより517号印刷代162,624円を支払った。
- 7 精度管理委員会**
特になし
- 8 一都八県会長会議**
- 1) 6月25日(土)一都八県会長会議が開催された。(別紙資料8)
- 9 日臨技関甲信支部**
- 1) 日臨技役員改選に伴い、神山支部長が退任し、林和樹氏(群馬県)が支部長に就任した。
- 10 日臨技**
- 1) 6月25日日臨技会員総会が開催された。会員数67,518名中、38,720名の参加で総会は成立しすべての議題が可決された。当会の神山清志氏は理事として選任(3期目)され、後の理事会で執行理事に選定された。主要な役職は、代表理事会長:宮島喜文、代表理事副会長:長沢光章・丸田秀夫、専務理事:滝野寿・深澤恵治、常務理事:増田泰蔵と選定された。(別紙資料9)
- 11 第50回埼玉県医学検査学会**
- 1) 6月23日(木)第9回学会実行委員会を開催した。(別紙資料10)
- 2) 学会長講演を50回学会記念式典の中で行うこととした。

Ⅲ. 承認事項**1 事務局**

1) 会員動向(令和4年度分)

令和4年7月1日現在
会員数 3,424名[令和3年度会員数3,329名]
(新入会員 185名)
賛助会員 62社[令和3年度 76社]
承認された。

2) 各種委員会委員の選任について

(別紙資料11)

上記の件について、濱本隆明事務局長から発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 研究班研修会の事業変更について

①血液研究班

・12月初心者・初級者血液形態セミナーを11月開催へ変更

・2月骨髓検査症例検討(Zoom)を1月に骨髓形態セミナー(会場開催)へ変更
(別紙資料12)

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

②一般検査研究班

・10月体腔液・関節液研修会を11月開催へ変更

・11月令和4年度一般検査実習を10月開催へ変更

上記の件について、長岡勇吾学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

1) 県医師会精度管理委員の推薦について

(別紙資料15)

上記の件について、山口純也副会長から発言があり、審議の結果、承認された。

8 第50回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題

- 1 事務局
特になし
- 2 総務部
特になし
- 3 事業部
特になし

- 4 学術部
特になし
- 5 精度保証部
特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



令和4年度 第1回検査室管理運営研修会のお知らせ

学ぼうハラスメントの基礎と対策

～ あなたの職場は大丈夫？ どこからがハラスメント？ ～

検査室管理運営委員会では管理職のみならず、検査室を運営する皆様を対象に研修会を企画しております。

令和4年度第1回検査室管理運営研修会は「学ぼうハラスメントの基礎と対策～あなたの職場は大丈夫？ どこからがハラスメント？～」と題し、開催いたします。臨床検査技師として働きやすく、働きがいのある職場になるよう少しでもお役に立てばという想いで企画しました。ロールプレイを盛り込み、分かりやすい内容となっていますので、多くのご参加をお待ちしております。

開催日：2022年9月22日(木) 19:00～20:30

Webにて開催 (Zoom使用)

講師：池上 貴子 (社会保険労務士法人やさか事務所)

参加費：無料

募集人数：450人

あ と が き

私の好きな暑い夏がやってきました。しかし、年を取ったためか？ 殆ど汗をかかなくなってきたような気がします。お年寄りには暑さに鈍感で、汗もかかないから熱中症になりやすいと言われますよね。我々、検査技師もエアコンの効いた室内で仕事をしているので皆さんも発汗作用（冷や汗を除く）が落ちていませんか？ 汗をかく習慣が無い方は、汗腺が詰まって汗が出難く、汗が臭いそうですよ！ 気化熱で体温を下げるという人間が生まれもった機能を発揮すべく、50回学会の市民公開講座でも講演されるサウナにできるだけ通って汗をかいてきました。その成果が、この『だより』が発行されている8月に試されているはずです。

(阿部 記)

